



石川県知事
谷本 正憲

石川の魅力を活かした国際交流

石川県では、古くから受け継がれる多くの伝統文化や伝統工芸が人々の暮らしの中に溶け込んでおり、国や県が指定する伝統工芸品も36品目あります。

また、豊かな自然にも恵まれ、平成23年には「能登の里山里海」が、その優れた景観や伝統的な技術、文化を国際連合食糧農業機関に評価され、先進国で初めて世界農業遺産に認定されました。

こうした石川県の魅力を大いに活かし、海外の大学生等を対象に単に日本語を学ぶだけでなく、ホームステイをしながら日本文化を体験してもらうプログラムが、本県独自の国際交流事業「石川ジャパンーズ・スタディーズ・プログラム（IJSP）」です。

このプログラムでは、日本語の学習に加え、茶道や金箔張り、和太鼓体験などの充実した日本文化体験や、一般家庭でのホームステイにより日本語の実践と日本人の日常の生活が体験でき、昭和62年の開始以来、世界25カ国・地域から4千名を超える研修生を受け入れ、米国のプリンストン大学やイタリアのミラノ大学など世界15の大学から正式に単位認定されているほか、米国連邦政府職員の日本語研修の場としても利用されるなど、諸外国から高い評価を頂いています。

さらに、これらの実績が、海外における日本語教育分野で高い専門性を有する独立行政法人国際交流基金から高く評価され、今年7月には自治体として初めて日本語教育に関する協定を締結したところです。今後、基金が招聘する研修生をIJSPに受け入れ、本県の豊かな自然や伝統文化を体験して頂くとともに、基金の指導により日本語研修プログラムの一層の充実を図ることとしております。

地方自治体が行う国際交流の意義は、それぞれの地域の財産や持ち味を活かし実りのある交流を実践していくことにあります。来年3月の北陸新幹線金沢開業を控え、本県では、現在、県を挙げて、特色ある伝統文化や歴史的景観、優れた食文化など、石川の多彩な魅力にさらに磨きをかける取り組みを全力で進めているところです。IJSPを通じて石川に集った世界各国の研修生の皆さんには、帰国後、母国において本県の様々な魅力をご紹介いただくとともに、末永く、日本、そして、石川県の応援団であり続けて欲しいと願っております。